愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	白井 克尚	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

卒業研究のテーマを各自が設定して研究を進める。テーマは、優れた教育・保育実践の事例分析・開発研究に関することである。この授業の大きな目標は、１研究テーマの決定、２研究実践の計画を立てる、３研究方法の確定である。同時に、話す・聞く力も育てる。通常はオンライン授業で行い、グループワークなど対面授業を予定している。 なお、オンデマンド授業時の質問等の受付については、授業内に指示する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	自分の研究の進行状況を報告しつつ、他の者の話を聞き参考にして、お互いが刺激し合い、研究を深めていく。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業の進め方についてのオリエンテーション	個人またはグループで、研究の計画を立てる。	□
第2回	地域における現代的課題と教育	各グループで、地域における現代的課題に関わる教育の研究を構想する。	□
第3回	地域における現代的課題と教師	各グループで、地域における現代的課題に関わる教師の研究を構想する。	□
第4回	研究実践プログラム及び活動計画の作成	各グループで、地域の連携機関や協力者との連絡調整を行い、研究実践計画を作る。	□
第5回	研究実践の準備（子ども対象）	子ども対象の研究実践の準備を行う。	□
第6回	研究実践リハーサル（子ども対象）	子ども対象の研究実践リハーサルを行う。	□
第7回	研究実践の実施（子ども対象）	子ども対象の研究実践を行う。	□
第8回	振り返りと修正	研究実践を通して修正を行う。	□
第9回	中間活動報告会	報告への質疑等をもとに、グループの取り組みと地域における現代的課題との関わりについて、グループ相互で検討する。	□
第10回	研究実践プラン集の作成	編集委員会を中心に、研究実践プラン集の作成を行う。	□
第11回	プレゼンテーションの準備	活動成果のプレゼンテーションの準備・プログラム作成を行う。	□
第12回	プレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの練習を行う。	□
第13回	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションを行う。	□
第14回	プレゼンテーションの振り返り	プレゼンテーションの振り返りを行う。	□
第15回	授業全体のまとめ	授業全体のまとめを行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次回の授業を理解するために、毎回指示するテーマや課題を予め調べておく（2時間程度）。 事後学習として、授業で扱ったテーマや課題について関連資料を参照しながら復習する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

研究成果の発表は、感想交流を通してフィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	調査、実践研究を通して課題を改善できる力を身につける。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	小学校教員・幼稚園教員・保育士になるための表現力、知識、能力を身につけることができる。
主体性	◆ 2019子ども発達DP3	各自、卒業研究のテーマを仮説的に設定できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

課題提出をもって、出席とする。毎回の授業の振り返りから、授業への取り組みの様子を評価する。研究実践の取り組みの様子やプレゼンテーションの内容から、思考力・表現力・判断力が身についたかを評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業において適宜配布する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	河村茂雄『教師力ー教師として今を生きるヒント』上,誠信書房,2003年	
2	河村茂雄『教師力ー教師として今を生きるヒント』下,誠信書房,2003年	
3	河村茂雄『教師のためのソーシャル・スキルー子どもとの人間関係を深める技術』誠信書房,2002年	
4	田中耕治『時代を拓いた教師たちー戦後教育実践からのメッセージ』日本標準,2005年	
5	田中耕治『時代を拓いた教師たち〈2〉実践から教育を問い直す』日本標準,2009年	